

第1章 福島県会津地方の特性と健全な水循環の必要性

1.1 福島県会津地方流域の概要・特性

会津地方は、越後山脈や飯豊山地、奥会津地方の多量の降雪により、その雪融け水が地下に浸透し、豊かな湧水の源になるとともに、阿賀川や只見川などの河川や猪苗代湖や沼沢湖などの湖沼に豊かな水量をもたらし、新潟県に阿賀野川となって流れています。また、高層湿原を有する尾瀬は貴重な水環境を作り出すとともに、只見川の源流になっており、多くの川が会津盆地の東部に向かって集まり、豊かな河川水と地下水を有しています。

会津地方の水のシンボルといえる猪苗代湖は、わが国第4位の面積を持ち、湖水面標高が会津盆地や郡山盆地よりも約300m高い所にあり、また、水質が良好であることから、堰などの水利施設によって会津地方や中通り地方に導水され、大きな恵みを与えています。

先人は、このような豊かな水を有効に使うため、会津盆地を始めとする各地に水路を張り巡らし、豊かな水田地帯と水文化を創り上げてきました。

(出典：うつくしま「水との共生」プラン 3-1(4)②(7頁))

山水と湖水、湧水が出会う場所、会津

会津を潤す豊かな水源



後世に残したい水・水文化



水で受け継がれてきた伝統

1.2 健全な水循環の維持・回復の必要性

本県は多くの河川や湖沼、湧水などの豊かな水環境と、水源をかん養する多様で豊かな森林に恵まれています。

また、河川の水源のほとんどが県内にあるという源流県であり、本県の水との関わり方が下流の県や海に直接影響を及ぼす点からも、源流県としての水環境を保全する責任は大きいものがあります。

近年、地球環境の変化と考えられる洪水や渇水の発生などの自然災害リスクの増加、農業・農村や森林の持つ多面的機能の低下、化学物質による水の汚染、生態系の変化、さらには人々の水に対する関心の低下などの変化は流域の水循環※1に対する負荷を増大させており、このままでは本県の健全な水循環※2が阻害されるおそれがあります。

私たちには、本県の豊かな水環境を保全し、健全な水循環を将来に継承するという責務があります。このため、県民一人一人が水に関心を持ち、水に関する将来像を共有して、小さな事から取組を始めることが大切です。

また、大きな川の流域は、小さな川の流域が集まって形成されており、水の問題に取り組む際には身近な流域から始めるとともに、上流と下流の流域の住民や、県を始めとする行政機関などが広域的に連携して進めていくことが重要です。

これらの取組を一層効果的に進めるためには、有識者や団体等の関係者が幅広く連携し、実践的に問題の解決を図る必要があります。

(出典：うつくしま「水との共生」プラン 1-2、1-3(4)②(1-2頁))



水循環イメージ

※1 水循環

水が、蒸発、降下、流下又は浸透により、海域等に至る過程で、地表水又は地下水として河川の流域を中心に循環すること。

※2 健全な水循環

人の活動及び環境保全に果たす水の機能が適切に保たれた状態での水循環。